

# 米子市内におけるドバト斃死事件について

【保健衛生室 食品衛生研究部門】

## 1 事件の概要

平成 14 年 11 月 17 日(日)午後 1 時 30 分頃、米子市彦名町在住の男性宅の壁に 1 羽のドバトが激突し、庭に墜落して死亡した。午後 2 時ごろ、男性が様子を見に外に出てみると、近くの畑の電柱付近に 8 羽のドバトが死亡しており、そのうち 1 羽を取得したが、残り 7 羽はカラス等に食べられてしまった。男性は原因が分からず不気味だったので、彦名公民館に持ち込んで相談し、近くの彦名駐在所に届け出た。

翌 18 日(月)10 時 30 分頃、彦名駐在所から米子地方農林振興局に連絡があり、振興局が調査を実施した結果、11 時 30 分頃、電柱付近に、多くのドバトと思われる羽が散乱しているのが確認された。

米子市動物医療センターに死亡ドバトの死亡原因について相談したところ、「他県でも集団突然死の事例があり、特定の木の実を食べる等による死亡も考えられるので、解剖して胃の内容物の科学的検査をする必要がある。」とのことであった。

そこで、倉吉家畜保健衛生所でドバトの病性鑑定(病理、細菌、ウイルス)を行うとともに、当所では、斃死したドバトのそ嚢中に多数存在し、発見場所付近で散布された肥料に使用された可能性のある農薬(ジメエート、メソミル)の残留検査を行った。

## 2 試料

検体は、①そのうの内容物、②筋胃の内容物、③筋胃及び腺胃・肝臓、④腸管及び腎臓、⑤肺及びそのう・脾臓の5つに分けて米子保健所より搬入された。

## 3 方法

搬入された検体は5つに分けられていたが、各々分析試料量として極微量であったので、検体を①腎臓及び肝臓、②筋胃、腺胃、腸管、肺及び脾臓、③そのうの内容物の3つに分けて、残留農薬検査を行った。検査方法は、残留農薬検査分析法 2002 年度版<sup>1)</sup>に従って実施した。

## 4 結果の概要

残留農薬検査の結果、試料①(腎臓・肝臓)から 0.85ppm、試料②(そのうを除く他臓器)から 1.35ppm のメソミルが検出された。ジメエートは共に検出されなかった。試料③(そのうの内容物)からは、いずれの農薬も検出されなかった(表)。また、病性鑑定においては、病因を推察する病理学的変化はみられず、細菌ウイルスの検出もなく感染症も否定された。

表:ドバトの残留農薬検査結果

		試料①	試料②	試料③	
		腎臓及び肝臓	その他の臓器 <sup>注1)</sup>	そのうの内容物 <sup>注2)</sup>	
農	ジメ ト エ ー ト	分析量	0.7 (g)	6.1 (g)	1.1 (g)
		検査 結果	ND	ND	ND
		定量 限界値	0.28 (ppm)	0.03 (ppm)	0.18 (ppm)
薬 名	メ ソ ミ ル	分析量	1.4 (g)	12.3 (g)	2.2 (g)
		検査 結果	0.85 (ppm)	1.35 (ppm)	ND
		定量 限界値	0.28 (ppm)	0.03 (ppm)	0.18 (ppm)

注1)筋胃、腺胃、腸管、肺、脾臓  
注2)黒色粒状物質

検出されたメソミルは、多くの害虫に対し速効性を示す農薬である。その作用機作は、コリンエステラーゼ(酵素)活性を阻害し、神経機能に障害を起すことにより殺虫作用を示す<sup>1)</sup>。人畜に対する経口毒性は比較的高いが一過性であり分解も速いという特性がある。検査結果から死因の特定には至らなかったが、農薬メソミルによる神経障害も原因の一つとして推測された。

## 参考文献

- 1) 上路雅子、小林裕子、中村幸二 残留農薬検査分析法 2002 年度版、ソフトサイエンス社